

## HOT NEWS

# 差別、偏見のない町づくりへ シトラスリボンプロジェクト



コロナ禍での医療従事者や感染が確認された方々への差別や偏見をなくそうと、そして、自粛が続く中、家族と楽しい夏の思い出をつくってもらおうと、7月31日、シトラスリボン、メッセージカード、家庭用火火をセットにして、町内の小中学校児童生徒全員に贈られました。

愛媛県から全国へ活動の輪を広げているシトラスリボンプロジェクト。鬼北町も暮らしの中で「ただいま」「おかえり」と言い合える、差別、偏見のない温かい町づくりを目指してこのプロジェクトに参加しています。

このたび贈られたシトラスリボンは鬼北町連合婦人会が、メッセージカードは町内全児童生徒が制作し、家庭用火火は鬼北町PTA連合会が用意しました。

同日、広見中学校では、終業式が行われる前に、シトラスリボン等の贈呈式があり、鬼北町PTA連合会会長宇都宮司さん、鬼北町連合婦人会会長松田八重子さんが出席。生徒たちへシトラスリボン等を贈りました。宇都宮さんは「贈った花火で家族と心に残る思い出を作してほしい」、松田さんは「差別、偏見のない地域を作る思いが子どもたちから大人にも広がってほしい」とそれぞれ話していました。

## さまざまな思いが込められたメッセージカード

児童生徒一人ひとりが考えたメッセージカードには、コロナ禍の中、頑張っている方々や大切な家族、友達に対しての思いや感謝の気持ちが綴られています。

広見中学校では、7月16日、生徒会が全校生徒へメッセージカードの制作を呼びかけ、生徒たちはメッセージカードを制作しました。制作を呼びかけた生徒会長の福鹿文音さんは「自分たちにできることは少ないかもしれないが、医療従事者や生活を支えてくれている人たちに感謝の気持ちを伝えたい」と話していました。

メッセージカードは、同じ学校の自分以外の児童生徒が書いたメッセージカードを受け取るようになっています。学校行事の縮小や、中学校総体の中止など学校生活において新型コロナウイルスの影響を大きく受けている子どもたち。受け取ったメッセージを見て、コロナ禍でも思いやりや感謝の思いをより一層大切にしていこうと決意を固めています。

